

佐世保市立広田小学校

所在地 佐世保市広田1丁目25番4号
校長 篠崎 信彦
学校規模 33学級 児童数1059名

学校教育目標

主体的に考え、正しく判断して行動できる
心豊かでたくましい子どもの育成

1. テーマ

地域の人材を生かした教育活動の実践

2. 目的

本校は、児童数1000人を超える県内最大の大規模校である。校区内の交通量も多く、児童の安全確保のために、登下校時の見守りなど地域の方々の協力が欠かせない。

また、地域には栽培活動や文化的活動等、秀でた技能を有しておられる方も多い。このような人材と教育力を教育活動に生かし、本校の「特色ある学校づくり」を推進することは、調和のとれた人間形成に大きく寄与するものと考えている。



東部スポーツ広場で行う1000人規模の運動会

3. 「特色ある学校づくり」の実践

(1) 学力の充実を図る

①サマーチャレンジ（夏休み学習会）の実施

平成18年度より、夏休みに「サマーチャレンジ」を実施している。実施時間は2時間で、前半の時間に7月までに学習した算数の学習プリントに取り組み、後半の時間に自分で計画した学習に取り組んでいる。学年毎にグループ分けを行い、各グループに教師を配置し、子どもたちの指導・質問に対応している。また、学習サポーターとして東翔高校の生徒が来校し、児童の学習を支援してくれた。学ぶ側、教える側ともに大変好評であった。今年度は7月22日（水）から2日間実施し、のべ約300人の児童が参加した。前期前半の学習内容の確認と定着のための学習会として定着している。



教師や東翔高校の生徒による学習支援

②朝のチャレンジタイム・読書タイム

水金の朝の時間帯 8:30～8:45 の15分間を「チャレンジタイム」とし、音読や計算練習を行うことにより、表現力や計算力などのスキルアップを図っている。また、木曜の朝の時間帯は「朝読書」の時間とし、読書活動に取り組んでいる。読み語りボランティアグループ「よむよむ」さんに来校していただき、学年毎に絵本の読み聞かせを行っている。児童はこの読み語りをとても楽しみにしており、読書への意欲が高まってきている。

③授業形態の工夫

児童の学力の充実と、意欲・関心を高めることを念頭におき、授業形態の工夫に取り組んでいる。特に算数科においては少人数加配の教員を生かし、授業改善・工夫に取り組んできた。

- 加配教員の活用による、児童にとってわかる授業のための指導体制の充実や、教材研究を推進する。(T・T、習熟度別少人数指導)
- ワークシートや課題プリントを活用し、学習内容の定着と数学的思考力の向上を目指す。

④校内研修への取組

本校は平成23・24年度に佐世保市教育委員会の指定を受け、国語科・算数科の言語活動を中心とした授業改善の研究に取り組んできた。全国学力・学習状況調査の全国平均点との差も年々縮まり、今年度は国語A、国語B、理科において全国平均点を上回ることができた。

今年度はこれまでに取り組んできた研究を継続し、言語活動の充実、中でも書く活動を通して児童の思考力・判断力・表現力等を高めていくことに努めている。職員の研修への意欲も高く、研究授業の実施に際しては、事前授業を実施して指導法を練り合う等の同学年の職員の協力体制が各学年ともよくとれていた。

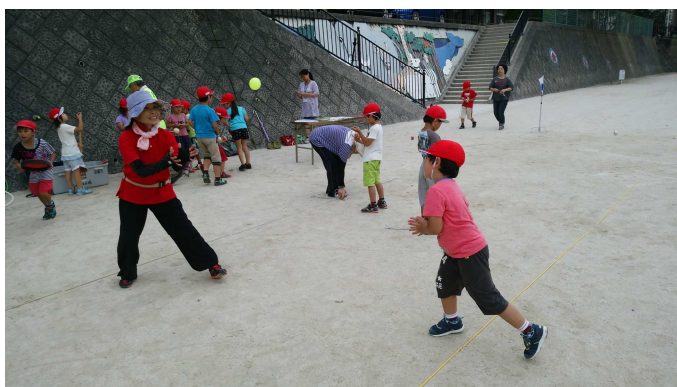
今後は、1月下旬に実施した国語科と算数科の学力テストの結果をもとに、児童の個々の課題を改善していく取組を行っていく。

(2) 地域と共に取り組む、安全安心な学校づくり

本校の周辺は、幅の狭い道路や見通しの悪い交差点が多く、児童の安全安心な登下校実施のためには、地域の方々の協力が欠かせない。平成22年度に立ち上げた「見守り隊」の方々による登下校時の見守りが、登下校時の安全確保のために大きな効果をあげている。10月7日(水)には広田中学校において、「広田地区子どもを見守る連絡協議会」を開催し、学校関係者・地域の方々・警察等関係機関の方が一堂に会し、地域の危険箇所の確認や、児童・生徒の問題行動防止についての情報交換・協議を実施した。また、10月13日(火)の「県内一斉防犯パトロール」の日には、「見守り隊」の方々、地域の方々、早岐警察署、東翔高校生徒会、保護者の方々の協力も得て、集団下校及び防犯パトロールを実施し、地域全体の防犯意識を高めることができた。このような功績が認められ、平成26年度には、第1回の「佐世保市犯罪のない安全・安心まちづくり市長賞」を受賞した。また、今年度は本校PTAが取り組んだ見守り活動が評価され、文部科学大臣表彰を受けている。



県内一斉防犯パトロールへの東翔高校生徒の協力



放課後の運動場での地域の方による児童の見守り

(3) 地域の人材と教育力を生かす

地域住民の方々を積極的に学校に招くとともに各種団体との交流の機会を設け、地域の教育力を学校の教育活動に取り込んでいる。

①各学年の地域の方々との交流

サツマイモの栽培 1. 2年生

J A 西海農協の方々の御指導の下、学校の花壇でサツマイモのツル差しを行い、秋にはたくさんの芋を収穫することができた。子どもたちは大きなサツマイモが収穫できたことを喜び、働くことの尊さを感じることができた。



昔遊び交流会 総合での地域学習 3年生

老人会と連携し、地域のお年寄りをお招きして、昔遊びを通じた交流会を実施した。けん玉、あやとり、おはじき、羽子板、お手玉などの昔遊びをお年寄りの方々に教えていただいたり、共に遊んだりすることで、子どもたちは日本の伝統文化を体験し、お年寄りから多くのことを学ぶことができた。また、来てくださった方々も、笑顔で生き生きと活動されていた。



総合的な学習の時間には、地域の方をゲストティーチャーとしてお招きし、地域に伝わる伝統行事についてわかりやすく話をしていただいた。子どもたちは熱心に話に聴き入り、広田の地域により愛着を感じることができた。その後のお礼の手紙にも素直な感謝の気持ちが表れており、手紙を受け取られた地域の方がとても喜ばれていた。

花作り協力隊 4年生

地域の方や保護者の方々（花作り協力隊）と「花作り」を行った。花作りでは給食の残菜を使っての肥料作りにも取り組み、環境に対する意識も高まった。育てた花が季節ごとにきれいに咲き、学校を彩っている。来校された花作り協力隊の方々も、児童との交流を楽しまれ、笑顔で活動していただくことができた。

大豆の栽培・味噌作り 5年生

J A 西海農協の方々の御指導の下、学校の敷地内で大豆の栽培を行い、収穫した大豆を使って味噌を作った。この活動を通して、栽培の喜びを味わったり、農産物を加工する伝統の知恵を学んだりすることができた。児童は学んだことを壁新聞にまとめ、校内に掲示して他の学年の児童に伝える予定である。

長崎国際大学との連携・交流 6年生

長崎国際大学が近隣にあることを生かし、大学の施設で児童が日本文化等に関する体験学習を行ったり、本校に海外からの留学生を招待して交流学習を実施したりしている。こうした活動を通して、児童の国際理解に関する意識が高まってきている。

○われら地球人「茶道体験学習」

日本の伝統文化にふれる体験学習として、「茶道体験学習」に取り組んだ。長崎国際大学の茶室で、茶道の専門家と茶道部の学生の方から指導を受け、わびさびの世界を味わうことができた。最初は緊張していた様子だった児童も、丁寧に指導をしていただいたおかげで興味・関心をもって取り組み、品格の向上と礼儀の体得という茶道が求める精神世界にふれ、日本のよき伝統を守りたいという気持ちが高まった。ここで学んだ礼儀やマナーが、普段の生活でも発揮できるように学校での指導を行っている。



長崎国際大学茶室での茶道体験学習

○留学生の方々との交流

国際理解教育の一環として、長崎国際大学の留学生の方々との交流学习を行っている。今年度は韓国とフィリピンからの留学生の方々と実際にふれあい、それぞれの国の文化について学んだり、日本の伝統的な遊びを共に楽しんだりする活動を行うことができた。これらの活動を通して、児童は外国の文化を体験的に理解し、異文化への興味・関心を高めるとともに、日本の文化についても改めて見直す機会となった。

②広っ子発表会

この発表会では子どもたちが国語や音楽、総合的な学習の時間などに学習したことを発表し、多くの人の前で表現する力を高めることをねらいとしている。保護者や地域の方々をお招きし、「広っ子フェスティバル」として毎年秋に開催してきたものを、今年度は、名称を「広っ子発表会」として開催した。11月20日（金）に第Ⅰ部として、1、2年生が「おいも祭り」を実施し、保護者を招待して、サツマイモを育てたことについて発表し、一緒においしく味わうことができた。12月18日（金）には第Ⅱ部として午前中に3～6年生によるステージ発表、午後には第Ⅲ部として5・6年生が各クラスで実演や発表を行った。

保護者をはじめ地域の方にも御来校いただき、器楽演奏、詩舞などを披露していただいた。子どもたちにとっては地域で活躍されている方々と知り合うことができ、伝統芸能にふれられるとてもよい機会となった。これからも、地域の方々との交流の場を設けていきたい。



体育館でのステージ発表



着物の着付け実演

（４）小中連携の教育の推進

本校の校区は、一小学校一中学校である。このことを生かし、小中間の授業交流や生徒指導上の情報交換などを行い、積極的に小中連携を図っている。夏季休業中の登校日には広田地区公民館において、第1回小・中合同研修会を実施した。6部会（学習規律、学習集団作り、総合的な学習の時間や外国語活動の充実、校内の生徒指導・生活指導、校外の生徒指導・生活指導、特別支援教育）に分かれて部会を開き、指導方法を出し合い、情報交換を行った。

また、12月10日（木）には、第2回小・中合同研修会を広田小学校で実施した。小学校の授業を中学校の教職員が参観し、その後の低・中・高学年部会では、発達段階に応じた指導のあり方や、小・中の学習規律のつながり等について意見交換を行った。また、全体会では、今後の小中連携のあり方について話し合いを行った。

平成29年度から、本校の過大規模状況を改善し、ゆとりのある教育環境を実現するために、小学校6年生児童が広田中学校の敷地で学校生活を送る、小中一貫型の教育活動がスタートする。この取組が児童にとってよりよいものとなるよう、今後も、市及び県の教育委員会の主導のもと、保護者や地域の方々等のご意見を聞きながら、小・中の連携を推進していきたいと考えている。

